

面接調査の訪問状況記録の検証

社団法人 新情報センター
 管理部 有坂 路子

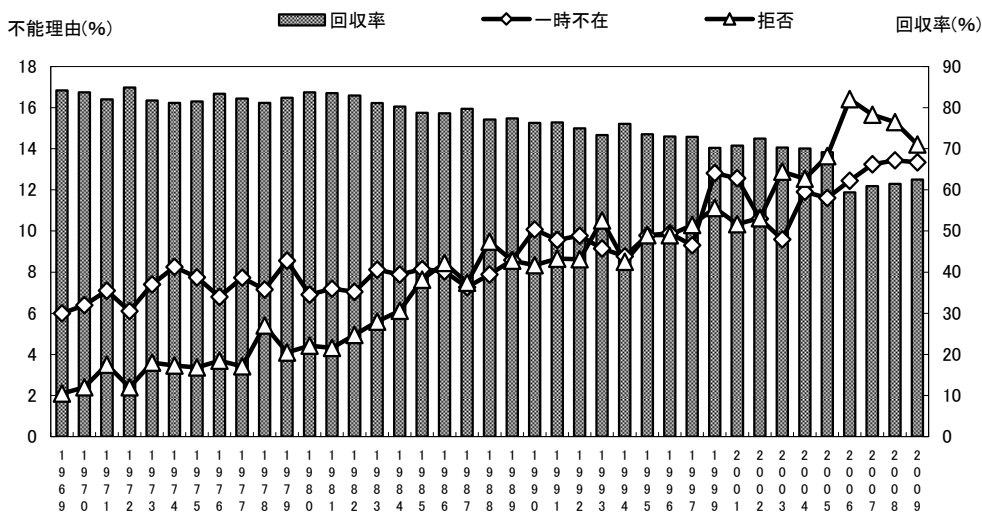
1. はじめに

調査の精度を測る尺度のひとつとして回収率は重要な要素である。しかし、近年、調査員による個別訪問調査は回収率の低迷が続いている。なかでも調査員が調査票の質問文を読み上げ回答を得るといふ形の面接調査の回収率は、深刻な状況となっている。図1は内閣府の面接調査を例に回収率の推移を示したものであるが、1984年までは8割以上を保っていた回収率は、2005年に69.2%と7割を下回り、2009年においては62.5%という状況である。国の調査以外でも同様の傾向がみられ、読売新聞が実施する面接調査では2006年に6割を下回り(窪田 2008)、

統計数理研究所の「日本人の国民性調査」では、1988年の第8次調査で61%、直近の2008年の第12次調査では52%と大きく低下している。

なお、面接調査での調査不能(調査の協力を得られなかったもの)の主な理由は、何度訪ねても調査対象者に会えない「一時不在」¹⁾と調査「拒否」である。「一時不在」と「拒否」はともに徐々に増加し、なかでも「拒否」の増加幅が大きく、近年では「拒否」が「一時不在」を上回っている(図1)。前述の調査についても同様の傾向がみられる。

図1 内閣府「国民生活に関する世論調査」回収率の推移



面接調査の長所として「社会調査の基本」(杉山 1984)では、3つあげられている。第1に指定した調査相手本人に調査できること、第2に複雑な質問をすることができること、第3に調査の有効率(回収率)が比較的安定して高いこと。この第3の長所は、現在あてはまらないことになる。それに対して、先の著書で回収率が低い調査と紹介されている郵送法は、近年では、調査票のレイアウトや調査書類発送・再送のタイミング、謝礼品などを工夫した結果、78%の回収率を

得たことが報告されている(松田 2008)。

今や面接調査は、お金も手間もかかる割には、回収率も上がらない調査となりつつあり、危機を迎えているといつてよいであろう。内閣府編集の「世論調査の現況」²⁾によると、1999年度は130本の面接調査(個別面接聴取法)が行われていたが、10年後の2008年度は70本と大きく減少しており、それを補うかのように郵送調査(郵送法)が増加している(表1)。

表1 調査方法の推移(「世論調査の現況」より)

	(件)									
	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
個別面接聴取法	130	128	173	122	99	132	97	80	98	70
郵送法	600	648	891	721	810	726	789	799	782	881
個別記入法	149	190	230	225	212	144	172	184	158	148
その他	120	167	161	173	234	187	160	207	161	119
合計	999	1133	1455	1241	1355	1189	1218	1270	1199	1218

面接調査の回収率の低迷は、社会状況、調査環境の悪化が少なからず影響していると考えられるが、私たち調査機関はこの状況を手をこまねいて見ているしかないのだろうか。先行研究をみると、面接調査の回収率についていくつかの検討がなされている。海野ら(2009)は、「調査管理者の熱意とそれに応える調査員の努力次第で回収率を回復させる余地が存在している」ことを示唆している。また、田辺(2003)や保田(2009)は、調査員の訪問記録の分析結果より対象者への接触状況や調査員の訪問パターンについて検討し、改善する余地があることを示している。

回収率の改善のためには、調査ツールの改善や、調査員の対応能力の向上

などいくつか考えられるが、本稿では、調査員の訪問状況記録を基に面接調査には不可欠である「対象者本人に会う」ということに着目し、回収率を向上するための方策を検討する。

2 調査の概要と回収結果

2-1 調査の概要

今回の訪問状況記録の検証は、調査期間中に天候の大きな乱れがなかったこと、調査のテーマや内容が平易であったこと、質問も面接調査として適当なボリュームであったことなどから、2009年2月下旬から3月上旬にかけてのおよそ2週間で弊社で実施した公的機関の調査を選定した。調査方法は調査員による面接調査、対象は全国の満20歳以上の男女個人

3,000人である。

抽出方法は、住民基本台帳による層化二段無作為抽出法で、対象者には事前に依頼ハガキを送付している。なお、ハガキでは訪問日時は限定せず、調査期間のみを記載している。調査内容は、食生活に関する内容で、質問数は30問程度であった。

調査実施時に、調査員に以下の訪問状況を記録させた。

- ・訪問日、時間（1, 2, 3, 4回目、5回以上の場合最終訪問について）
- ・接触状況（本人に会えた、家族に会えた、誰にも会えない）
- ・対応方法（調査完了、在宅時間確認、不在票の使用、拒否、拒否以外の不能など）
- ・総訪問回数

調査員には、平日と土日に分けて3回以上時間帯を変えて訪問するよう指示しており、調査対象者が不在の場合は、再度訪問する日時を記入した不在票を必要に応じて使用し、最終訪問まで調査対象者に会えなかった場合は、調査終了の旨

を記載した不在票を残すこととしている。

なお、調査協力者には、粗品として筆記具を渡した。

2-2 回収結果

まず、本調査での回収結果と不能の内訳について表2に示す。3,000の標本数のうち、対象者本人から協力が得られた（完了）のは、1,862票（62.1%）で、残りの1,138票（37.9%）は調査不能となった。

不能の理由としては一時不在が最も多く、次いで拒否となっており、不能に占める一時不在と拒否の合計は7割半ばである。不能の理由の多くを一時不在と拒否が占めているのは過去の調査全般の傾向と変わりはないが、本調査では一時不在が拒否をやや上回っている。その理由のひとつとしては、調査テーマが「食生活」と身近なことで、対象者にとっても調査員にとっても質問に入りやすく、対象者に会えれば協力を得やすい調査であったと考えられる。

表2 回収結果と不能の内訳

	完了	不能(計)						その他
		転居	長期不在	一時不在	住所不明	拒否		
n	1,862	1,138	114	69	439	39	416	61
%(標本数内)	(62.1)	(37.9)	(3.8)	(2.3)	(14.6)	(1.3)	(13.9)	(2.0)
%(不能票内)	-	(100.0)	(10.0)	(6.1)	(38.6)	(3.4)	(36.6)	(5.4)

表3は、性・年代別の回収結果と不能の内訳である。男性の完了が57.1%、女性の完了が66.7%と男女で10ポイント近くの差がある。男性の20代、30代、女性の20代で特に不能が多く、若年層での回収率（完了）は、男女共に他の年代に比べ大きく下回っている。

不能の内訳をみると、男性の20代、

30代の若年層で一時不在が特に多いのがわかる。女性の若年層でも一時不在は少なくない。一方、高年齢層ほど一時不在は少なくなるが、拒否の割合はどの年代にも大きな差はみられない。その結果、不能の割合は、男女ともに40代までは一時不在が最も多く、50代以上では拒否が最も多くなっている。

また、20代の男女で転居が他の年代に比べ多くなっているが、住民票はあるが実際は転出しているなどのケースと考えられ、若年層の不能理由の特徴の一つである。

次に都市規模別による回収結果をみると(表4)、大都市では完了が6割を下回ったが、

他の都市規模では6割を上回り人口10万未満の市では7割近くになっている。

不能の内訳は、大都市で一時不在が他の都市規模に比べ多くなっている。前述の性・年代別の不能内訳と勘案すると、一時不在は大都市での若年層に多いと推察される。

表3 回収結果と不能の内訳(性・年代別)

性・年代	n	完了	不能(計)	(%)					
				転居	長期不在	一時不在	住所不明	拒否	その他
総計	3,000	62.1	37.9	3.8	2.3	14.6	1.3	13.9	2.0
男性(計)	1,451	57.1	42.9	4.6	2.9	17.2	1.7	14.8	1.7
20代	176	38.6	61.4	14.8	2.8	27.3	3.4	12.5	0.6
30代	241	43.6	56.4	7.9	2.1	30.3	2.9	12.9	0.4
40代	247	56.3	43.7	3.6	1.6	20.6	0.8	16.2	0.8
50代	269	56.9	43.1	3.3	4.8	15.2	1.1	17.8	0.7
60代	307	69.4	30.6	1.3	2.3	8.1	1.0	16.6	1.3
70代以上	211	71.6	28.4	-	3.8	5.2	1.4	10.9	7.1
女性(計)	1,549	66.7	33.3	3.0	1.7	12.3	1.0	13.0	2.3
20代	168	49.4	50.6	11.3	3.0	21.4	1.2	12.5	1.2
30代	273	62.6	37.4	3.7	1.8	18.3	2.2	10.6	0.7
40代	234	67.1	32.9	1.3	1.3	15.4	0.9	14.1	-
50代	264	72.3	27.7	1.5	0.4	11.4	0.8	12.9	0.8
60代	325	75.1	24.9	2.2	0.6	7.1	0.6	12.0	2.5
70代以上	285	65.6	34.4	1.4	3.9	5.3	0.4	15.8	7.7

表4 回収結果と不能の内訳(都市規模別)

都市規模	n	完了	不能(計)	(%)					
				転居	長期不在	一時不在	住所不明	拒否	その他
総計	3,000	62.1	37.9	3.8	2.3	14.6	1.3	13.9	2.0
大都市	782	57.7	42.3	3.1	2.3	20.7	1.2	12.8	2.3
人口20万以上の市	635	61.1	38.9	4.4	2.2	13.1	2.2	15.4	1.6
人口10万以上の市	615	62.4	37.6	3.9	3.1	14.8	0.7	14.0	1.1
人口10万未満の市	658	67.0	33.0	3.6	2.3	10.5	1.2	12.2	3.2
郡部	310	63.9	36.1	4.5	1.0	11.0	1.3	16.8	1.6

※大都市:東京都と政令指定都市

3 訪問状況記録の分析

3-1 対象者との接触状況

面接調査で協力を得るためには、対象者本人に会うことが不可欠である。では実際、調査期間中に対象者本人とはどの程度接触することができているのだろうか。

調査期間中に記録した訪問状況記録により、完了・不能にかかわらず、調査期

間中の対象者本人と接触できたかどうかについて、図2に示す。分析対象は3,000の標本中、住所不明(39件)、本社に拒否の連絡(28件)及び訪問状況の未記録(17件)を除いた2,916件(以下、2,916件を対象者全体とする)に対する計6,792回の訪問の記録である。1人の対象者に対して最終的に対象者本人に接触できた場合を「接触あり」、接触できな

った場合を「接触なし」とする。

2,916 件中、7 割の対象者に接触できており、男性より女性、また高年齢層ほど接触状況は良い。不能の理由として一時不在が多かった男性の 20 代、30 代では、対象者に接触できたのは半数に満た

ず、女性の 20 代についてもかろうじて 5 割を超えている状況である。

都市規模による接触状況は、対象者本人と接触できた割合は大都市が最も低く、人口 10 万未満の市とは、10 ポイント近くの差がある (図 3)。

図 2 対象者本人との接触状況 (性・年代別)

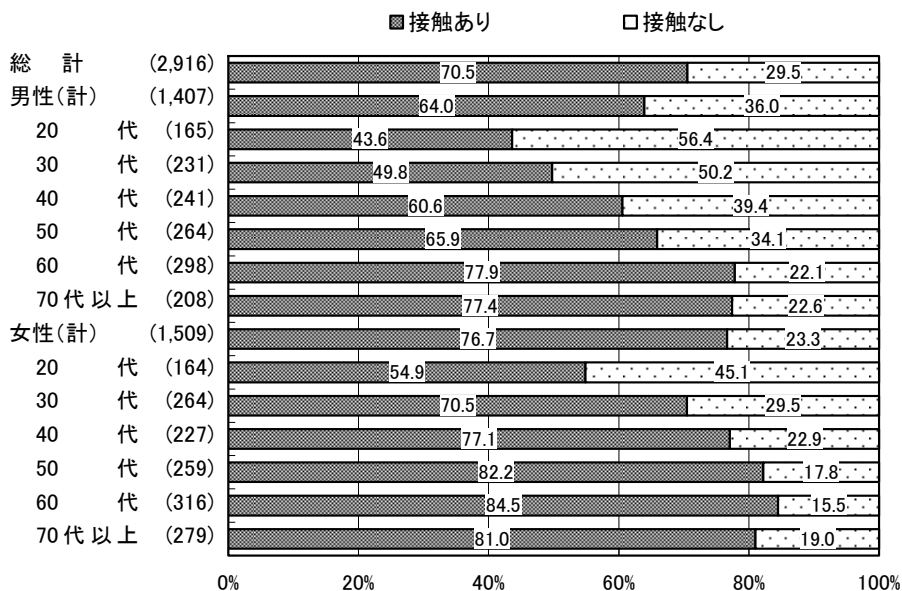
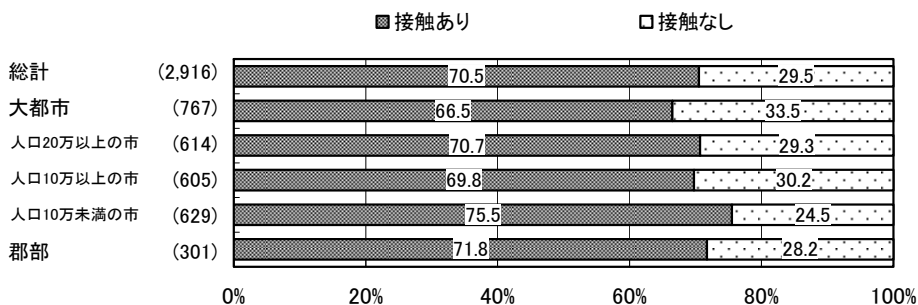


図 3 対象者本人との接触状況 (都市規模別)



3-2 対象者との接触状況と訪問回数

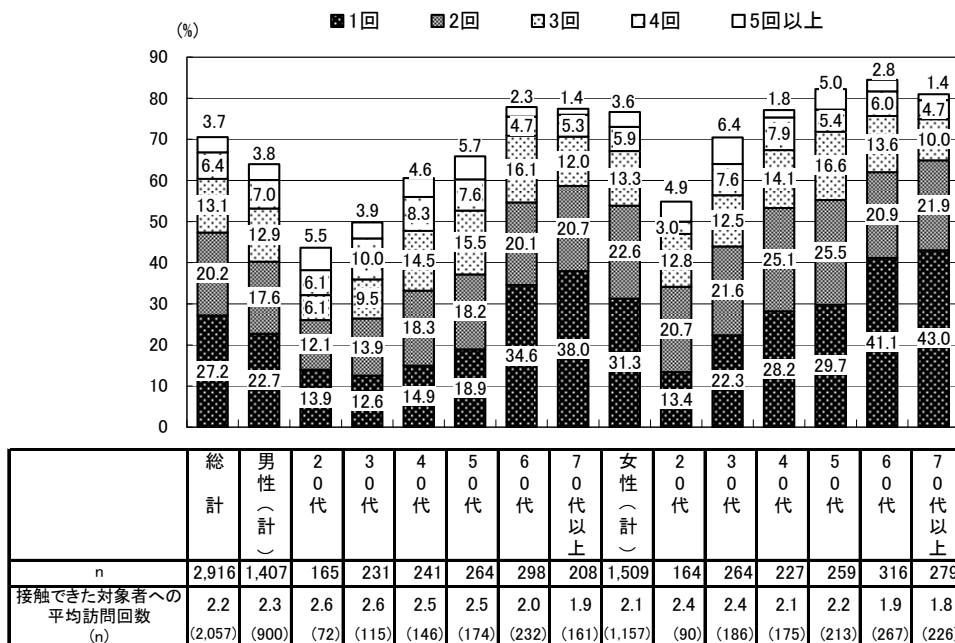
対象者本人には、何回目の訪問で会えているのだろうか。図4は、接触できた対象者毎の総訪問回数の分布である。棒グラフの長さは、対象者全体に対する接触できた対象者の割合を示している。

まず、総計をみると、最初の訪問で対象者全体の3割近くに会えており、2回目までに約半数と接触できている。接触できた対象者への平均訪問回数は2.2回である。

性・年代別でみると、最初の訪問で会

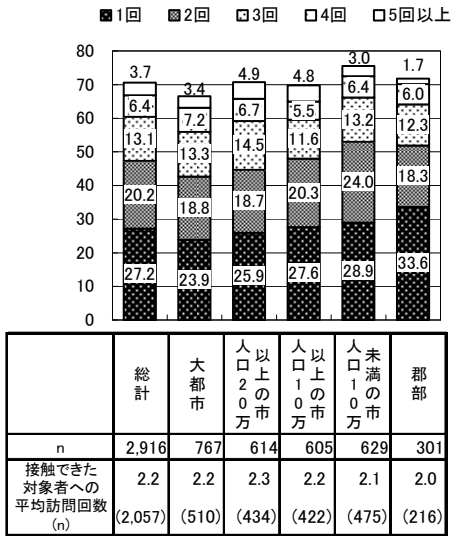
えた割合は、高年齢層ほど高くなっている。男性の70代以上、女性の60代、70代以上では最初の訪問で4割前後に接触できており、平均訪問回数も2回未満と接触しやすかったことがわかる。一方、男性の20～40代、女性の20代では、最初の訪問で1割強しか接触できていない。男性の20代、30代の平均訪問回数は他の年代よりも多い2.6回であり、訪問を重ねてようやく半数の人に会えたという状況である。

図4 接触できた場合の訪問回数（性・年代別）



都市規模別にみると（図5）、都市規模が小さいほど最初の訪問で会うことができており、郡部と大都市では10ポイント近くの差がみられる。

図5 接触できた場合の訪問回数
（都市規模別）



3-3 対象者との面会日時

前節までに、対象者本人との接触状況と、接触するまでの訪問回数を検証したが、では、対象者とはどのような曜日や時間帯に接触できたのだろうか。図6～10は、それぞれ接触できなかった訪問も含めた訪問記録全体（住所不明、本社に拒否の連絡及び訪問状況の未記録を除いた2,916件に対する計6,792回の訪問記録）に占める本人に接触できた訪問の割合（接触率³⁾）を示している。

（1）接触率（全訪問記録ベース）

まず、曜日別にみると（図6）、日曜日が最も接触できているが、土曜日や平日に比べて圧倒的に高いというわけではなく、いずれの曜日も3割前後の接触率であった。

さらに時間帯ごとの接触率を土曜日、日曜日、平日別にみると（図7）、19時以降の訪問はいずれの曜日も接触率は高めで、特に平日が4割と土曜日、日曜日を抜いて最も高い。他の時間帯は、9時台までを除いていずれも日曜日が土曜日、平日より接触率が高くなっている。9時台までについては、訪問件数が少ないものの土曜日は4割を越え、日曜日の接触率についても3割半ばである。しかし、調査員には、約束のない限り朝早い時間帯や夜遅い時間帯は訪問しないように指導しており、9時より早い時間帯の訪問は控えているのが現状である。また、19時以降の訪問についても、接触できたとしても協力獲得の割合が低いという先行研究（保田 2009）もあり、遅い時間の訪問は本人との接触には有効であっても、協力依頼にはマイナス面の一つとして考えられる。

都市規模別の接触率をみると（図8）、大都市では平日だけでなく、土日の接触率もあまり伸びず3割前後である。人口10万未満および郡部については、土日のみでなく、平日の接触率も3割を超えている。

次に、性・年代別の接触率をみると（図9、10）、男性は、20代から60代まで日曜日の接触率が最も高く、特に男性の40代、50代は、日曜日の接触率が土曜日や平日の接触率を10ポイント以上上回っている。また、60代、70代以上の男性は、土曜日、平日の接触率も高く、いずれの日曜日も4割前後の接触率となっている。女性は、20代から50代までは平日の接触率は土日よりも低い、60代、70代以上は平日の接触率は土日を抜いて最も高

い。20代では、日曜日の接触率が土曜日や平日を10ポイント近く上回っているが、30代以上では土曜日と日曜日は同程

度であった。

同じく訪問記録の分析を行った保田(2009)の研究事例においても、日曜日は接触できた割合が高いことが示されているが、20~39、40~59歳の男性および40~59歳の女性に限られており、また、接触できても協力を得られる率は一様に高いとはいえ、訪問曜日と協力の得やすさの関係は、あまり固定的ではないとしている。

図6 接触率（曜日別）

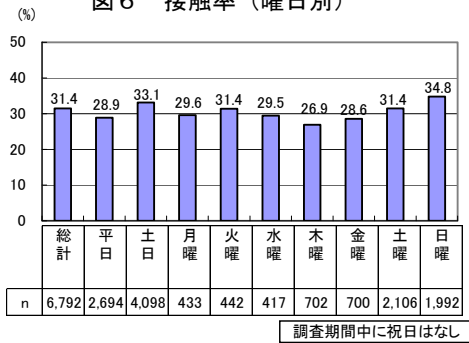


図7 接触率（時間帯別）

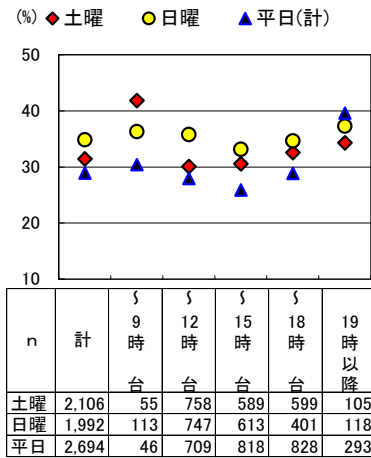


図8 接触率（都市規模別）

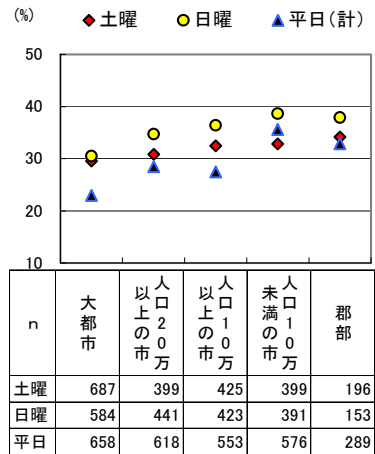


図9 接触率（男性/年代別）

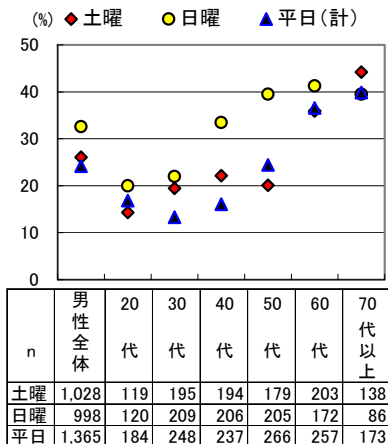
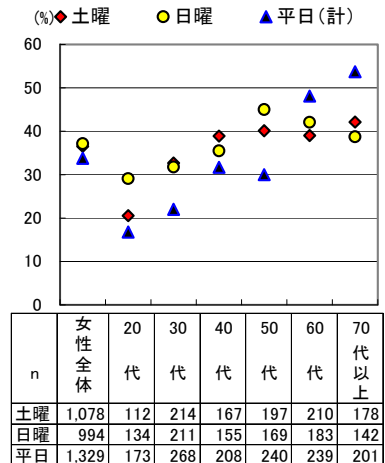
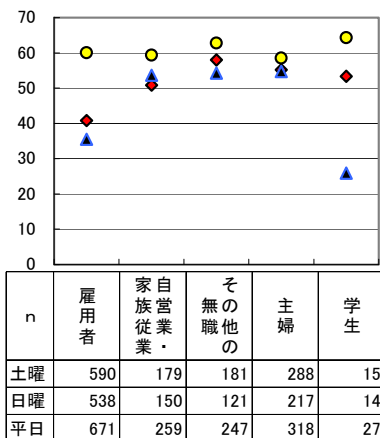


図10 接触率（女性/年代別）



なお参考までに、接触できた対象者のうち調査の協力を得られた対象者のみを取り出し、職業別にその接触率（調査完了 1,862 件のうち訪問状況の未記録 15 件を除く、1,847 件への訪問記録計 3,768 回に占める本人に接触できた訪問の割合）をみたものが図 11 である。日曜日の接触率はいずれの職業でも最も高くなっている。特に雇用者では、土曜日、平日の訪問に対する接触率が 4 割前後であるのに対し、日曜日は 6 割と高い確率で接触できている。一方、自営業・家族従業、その他の無職、主婦では接触率は平日でも 5 割を超えている。学生についてはサンプル数は少ないが、平日は会いにくかったものの、土曜日、日曜日の週末で 5 割以上の接触率であった。

図 11 接触率（完了/職業別）
(%) ◆土曜 ●日曜 ▲平日(計)



以上のことより、本調査では、日曜日はどの時間帯も 3 割半ば前後の接触率であり、日曜日の稼働が効率的であったといえる。土曜日についてもどの時間帯も 3 割を超える接触率であり、特に 9 時台までの接触率は 4 割を上回っていた。平

日については、19 時以降の訪問が 4 割の接触率と効率的であるが、夜遅く暗くなってからの訪問は、調査員へ控えるように指導しており、在宅がわかっているにもかかわらず訪問しないようにしているのが現状である。

また、男性の 40 代、50 代、女性の 20 代は日曜日で、他の曜日に比べ接触率が高かった。完了できた対象者の職業状況によると、雇用者は日曜日で、土曜日や平日に比べより高い接触率であった。

(2) 接触できた日時の分布（接触した訪問記録ベース）

さらに、6,792 回の全訪問記録のうち、対象者本人に接触できた 2,135 回⁴⁾の訪問記録のみを取り出し、その日時の分布を表 5 に示す。接触できた訪問記録のみに絞るため、結果は調査員の稼働状況により大きく左右されることとなる。しかし、調査員の稼働状況は、季節によって時間帯は多少前後するものの、おおむね変わらない。よって、調査員が稼働の多い時間帯の中で、さらにどの時間帯に多く接触できたかという視点でみていきたい。

全体では、土曜日に 3 割、日曜日も 3 割と週末が 6 割を占める。平日も 3 割半ばと少なくない。男性全体では土曜日よりも日曜日に、特に日曜日の 10~12 時台が最も多くの対象者に会えていた。男性の 20 代、70 代以上は平日で、40 代、50 代は日曜日で 4 割を超えている。女性全体では、平日が 4 割弱で、土曜日、日曜日はいずれも 3 割と土日では差がなかった。女性の 20 代は日曜日で、60 代、70 代以上では平日で 4 割台となっている。

性・年代別の傾向をみると、会にくい男性の20代は平日の夕方以降、男性の30～50代、女性の20代は日曜日の昼前後、女性の40代は平日の夕方以降にやや集中している。

9時台まで、及び19時以降の割合が低い理由としては、調査員の稼働が少ないためと考えられる。

次に調査員の稼働状況について示す。

表5 接触できた日時（性・年代別）

	n	土曜(計)					日曜(計)					平日(計)							
		～9時台	～12時台	～15時台	～18時台	19時以降	～9時台	～12時台	～15時台	～18時台	19時以降	～9時台	～12時台	～15時台	～18時台	19時以降			
総計	2,135	31.0	1.1	10.7	8.4	9.1	1.7	32.5	1.9	12.5	9.5	6.5	2.1	36.5	0.7	9.3	9.9	11.2	5.4
男性(計)	923	29.0	1.0	10.5	7.6	8.5	1.5	35.2	2.3	15.2	9.5	6.2	2.1	35.8	0.5	9.4	8.1	9.9	7.8
20代	72	23.6	1.4	9.7	9.7	1.4	1.4	33.3	1.4	9.7	13.9	6.9	1.4	43.1	-	9.7	5.6	13.9	13.9
30代	117	32.5	0.9	11.1	6.8	10.3	3.4	39.3	3.4	20.5	4.3	8.5	2.6	28.2	-	4.3	2.6	11.1	10.3
40代	150	28.7	1.3	10.7	6.0	7.3	3.3	46.0	2.0	22.0	13.3	7.3	1.3	25.3	0.7	4.7	7.3	3.3	9.3
50代	182	19.8	-	4.4	5.5	9.3	0.5	44.5	3.3	18.7	13.7	4.4	4.4	35.7	1.1	6.0	8.2	10.4	9.9
60代	238	30.7	0.8	12.2	8.8	8.4	0.4	29.8	2.9	11.8	8.0	5.9	1.3	39.5	0.4	15.5	6.3	11.8	5.5
70代以上	164	37.2	1.8	14.6	9.1	10.4	1.2	20.7	-	8.5	5.5	5.5	1.2	42.1	0.6	12.2	16.5	9.8	3.0
女性(計)	1,212	32.5	1.2	10.8	9.1	9.7	1.8	30.4	1.7	10.5	9.5	6.8	2.1	37.0	0.7	9.2	11.3	12.2	3.6
20代	91	25.3	2.2	11.0	6.6	4.4	1.1	42.9	2.2	16.5	12.1	5.5	6.6	31.9	-	8.8	8.8	8.8	5.5
30代	196	35.7	1.0	11.2	9.7	11.2	2.6	34.2	0.5	10.7	11.7	7.7	3.6	30.1	1.5	6.6	7.1	9.7	5.1
40代	186	34.9	-	15.1	8.6	8.6	2.7	29.6	1.6	8.1	10.8	6.5	2.7	35.5	-	6.5	8.1	16.7	4.3
50代	227	34.8	2.2	8.4	7.9	13.7	2.6	33.5	3.5	13.2	8.4	6.6	1.8	31.7	0.4	4.8	8.4	14.5	3.5
60代	274	29.9	1.5	9.5	9.9	8.0	1.1	28.1	1.8	9.1	8.0	8.0	1.1	42.0	1.1	14.2	14.2	10.2	2.2
70代以上	238	31.5	0.4	10.9	10.1	9.2	0.8	23.1	0.4	8.8	8.4	5.5	0.0	45.4	0.8	11.8	17.6	12.2	2.9

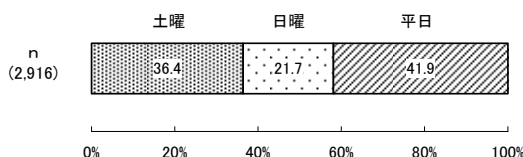
3-4 調査員の稼働状況

訪問については、平日と土日に分けて3回以上、時間帯を変えて訪問するよう指導している。具体的には、平日が調査開始日であることが多いため、まず、平日に調査地域に赴き、調査地域や対象者の居住地の確認などを兼ねて、対象者宅をひとまわりする。そして、在宅率が高いと思われる土日は、平日に会えない層を集中的に訪問するというものである。勿論、天候や調査員の都合等で、第1回目の訪問を土日にするというケースもある。

本調査でも、対象者宅への訪問初日は平日が最も多かった(図12)。図6に示したように平日の接触率は3割弱と、土日より若干少ないものの、平日だからといって大きな落ち込みはみられなかった。接触できた日時の分布でみれば(表5)、

平日全体での接触は、土曜日、日曜日それぞれより多くなっている。また、1回目の訪問で対象者全体の3割近くに接触できており、特に60歳以上では男女ともに他の年代に比べ1回目の接触率が高かったこと(図4)、高齢層では平日の接触率が高かったことから(図9、10)、無職者や主婦などの平日に在宅している対象者には、訪問初日の平日の訪問1回で接触でき、完了にしろ不能にしろ、調査が終了というケースが多かったことがうかがえる。

図12 対象者宅への訪問初日の曜日(訪問状況記録の1回目訪問の記録より)



すべての訪問記録（6,792回）を土曜日、日曜日、平日に分け、2,916件（訪問記録があった対象者数）で割った結果が図13である。訪問1回目で3割近くに接触できているため、土曜、日曜、平日のいずれも100%には達していない。

平日の訪問は9割を超え、ほぼすべての対象者に対して平日1日は必ず訪問していることがわかる。土曜日と日曜日は7割前後となっており、土日両方もしくは、どちらかを訪問している。

時間帯をみると、平日や土曜日は、10時から18時台まで同程度で訪問しているが、日曜日は時間が遅くなるに従って訪問割合が減っている。また、いずれの日曜日も9時台までと19時以降はわずかである。

図13 対象者宅への訪問時間帯
 ■～9時台 ■10～12時台 ■13～15時台
 □16～18時台 □19時以降

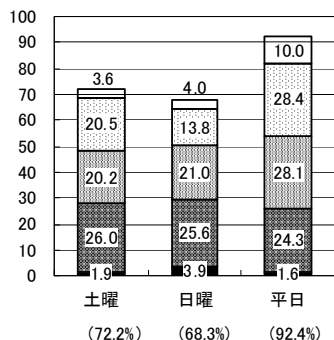


表6 接触ありの場合の回収結果と不能の内訳（性・年代別） (%)

	n	完了	不能(計)	不能の内訳				
				転居	長期不在	一時不在 ⁵⁾	拒否	その他
接触あり(計)	2,057	89.8	10.2	-	-	0.3	9.4	0.5
男性(計)	900	91.4	8.6	-	-	0.4	8.0	0.1
20代	72	90.3	9.7	-	-	1.4	8.3	-
30代	115	90.4	9.6	-	-	-	-	-
40代	146	95.2	4.8	-	-	0.7	4.1	-
50代	174	87.9	12.1	-	-	1.1	10.3	0.6
60代	232	90.9	9.1	-	-	-	-	-
70代以上	161	93.8	6.2	-	-	-	-	-
女性(計)	1,157	88.5	11.5	-	-	0.2	10.5	0.9
20代	90	92.2	7.8	-	-	-	-	1.1
30代	186	91.4	8.6	-	-	0.5	7.5	0.5
40代	175	87.4	12.6	-	-	-	-	-
50代	213	89.2	10.8	-	-	0.5	10.3	-
60代	267	90.3	9.7	-	-	-	-	1.1
70代以上	226	82.7	17.3	-	-	-	-	2.2

3-5 接触の有無別にみた不能理由

前節までに、対象者との接触状況、接触できた場合の訪問回数、接触した日時についてみてきた。では、実際に接触できた対象者の調査への協力率は、どの程度であろうか。表6と表7は、対象者本人との接触の有無毎に、回収結果と不能の内訳を示したものである。

対象者への接触ありの場合、9割が調査を完了しており、対象者本人による拒否はわずか1割弱である。性・年代別でもほぼ同様の傾向がみられる(表6)。つまり、調査員と対象者本人が接触し、調査についての説明が直接できれば、ほとんどの対象者から協力が得られたということである。調査主体、調査テーマ、質問の内容やボリュームなどにもよるだろうが、対象者と接触できれば、簡単には拒否されない能力を調査員が備えているということがいえるだろう。

対象者への接触なしの場合については、やはり一時不在が最も多いが半数に留まり、拒否が2割半ばを占めている。対象者本人に接触できないままの拒否は、女性より男性に多く40代～60代で3割を超える(表7)。

表7 接触なしの場合の回収結果と不能の内訳（性・年代別）

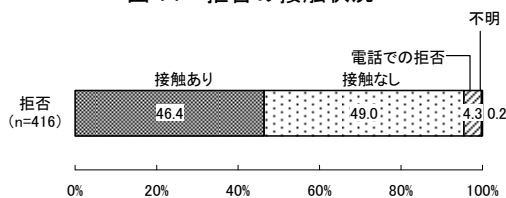
(%)

	n	完了	不能(計)					
				転居	長期不在	一時不在	拒否	その他
接触なし(計)	859	-	100.0	13.0	7.6	50.3	23.7	5.4
男性(計)	507	-	100.0	13.0	7.9	48.1	26.6	4.3
20代	93	-	100.0	28.0	5.4	49.5	16.1	1.1
30代	116	-	100.0	15.5	3.4	62.9	17.2	0.9
40代	95	-	100.0	9.5	3.2	52.6	32.6	2.1
50代	90	-	100.0	10.0	14.4	43.3	31.1	1.1
60代	66	-	100.0	6.1	10.6	37.9	42.4	3.0
70代以上	47	-	100.0	—	17.0	23.4	27.7	31.9
女性(計)	352	-	100.0	13.1	7.1	53.4	19.6	6.8
20代	74	-	100.0	25.7	6.8	48.6	17.6	1.4
30代	78	-	100.0	12.8	3.8	62.8	19.2	1.3
40代	52	-	100.0	5.8	5.8	69.2	19.2	—
50代	46	-	100.0	8.7	2.2	63.0	21.7	4.3
60代	49	-	100.0	12.2	4.1	46.9	26.5	10.2
70代以上	53	-	100.0	7.5	20.8	28.3	15.1	28.3

さらに、不能の理由が拒否であった対象者のみを取り出して、対象者への接触状況をみると（図14）、本人との「接触あり」、つまり対象者本人による拒否は46.4%に留まり、本人との「接触なし」、つまり家族による拒否は49.0%と対象者本人による拒否をやや上回っていた。なお、家族による拒否の理由を、調査状況記録よりみてみると、「本人からの伝言」という回答もみられたが、対象者本人の協力意向がわからないものが多かった。

仮に、本調査で家族により拒否となった対象者（204件）すべてと接触できたとしたら、そのうち9割の対象者（184件）から協力を得られた可能性がある。これは、回収率にすると6.1%の増となり、決して少ない数ではない。これが半数であったとしても、3.0%の増となり、家族による拒否を減らすことは、回収率を押し上げる大きな要素である。

図14 拒否の接触状況



3-6 不能の内訳と訪問回数

不能理由で最も多かった一時不在というのは、どの程度訪問した結果なのだろうか。表8は、訪問回数について、不能理由別に示したものである。一時不在は、平均4.5回訪問しており、5回以上の訪問も4割を超えている。なお、一時不在のうち3回未満の訪問で終了している不能は、いずれも対象者の家族から「帰りが遅く土日仕事で、来てもらっても困る」、「仕事が不定期で何時に帰ってくるかわからない」などと言われたケースであった。

さらに、不能の理由のうち拒否のみを取り出し、対象者本人との接触の有無別に訪問回数をみると（表9）、対象者本人と接触できなかった「接触なし」では訪問回数2回までで半数以上が調査を終了している。接触がない場合でも訪問回数が少ない段階で家族から拒否されており、接触ありの場合の平均訪問回数とほとんど差がみられない。

性・年代別と都市規模別に完了、不能と、不能理由が一時不在の3つについて、平均訪問回数を算出した（表10, 11）。

性・年代別の完了の訪問回数は、男女ともに若年層ほど訪問回数は多く、若年層は訪問を重ねてようやく協力を得ることができている。一時不在のため不能であった対象者の平均訪問回数はいずれの年代も4回を超え、特に女性の20代は平均5回訪問している。都市規模別では、調査を完了した場合の訪問回数には大きな差はなかった。一時不在のため不能で

あった対象者には、大都市では平均4.5回、人口20万以上では平均5.1回訪問を重ねていた。

訪問回数については、いずれの性・年代、都市規模についても、完了については2回程度の訪問であるが、一時不在については、4回、5回と訪問を重ねても対象者に会えない様子が見える。

表8 完了及び不能の内訳と訪問回数

	n	1回	2回	3回	4回	5回以上	平均(回)
総計	2,916	33.5	24.8	18.9	11.9	10.9	2.5
完了	1,847	38.6	29.0	18.2	9.3	4.9	2.2
不能(計)	1,069	24.6	17.6	20.0	16.5	21.3	3.1
転居	112	52.7	20.5	15.2	5.4	6.3	1.9
長期不在	65	33.8	20.0	33.8	7.7	4.6	2.3
一時不在	438	3.2	6.2	19.9	27.6	43.2	4.5
拒否	397	33.2	28.2	21.2	10.1	7.3	2.3
その他	57	63.2	22.8	7.0	7.0	-	1.6

表9 拒否の内訳と訪問回数

	n	1回	2回	3回	4回	5回以上	平均(回)
拒否(計)	397	33.2	28.2	21.2	10.1	7.3	2.3
接触あり	193	37.8	25.9	20.7	7.3	8.3	2.3
接触なし	204	28.9	30.4	21.6	12.7	6.4	2.4

表10 平均訪問回数(性・年代別)

	総計	男性(計)	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	女性(計)	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
総計	2.5	2.6	2.9	3.1	2.9	2.7	2.2	2.0	2.4	2.8	2.8	2.5	2.5	2.1	2.0
完了	2.2	2.3	2.6	2.6	2.5	2.4	2.0	1.8	2.1	2.5	2.3	2.1	2.2	1.9	1.8
不能	3.1	3.1	3.1	3.5	3.4	3.1	2.7	2.5	3.2	3.2	3.9	3.3	3.4	2.9	2.4
うち一時不在	4.5	4.3	4.4	4.4	4.1	4.3	4.4	4.8	4.7	5.0	4.5	4.6	4.9	4.5	4.6

表11 平均訪問回数/都市規模別

	総計	大都市	人口20万以上	人口10万以上	人口10万未満	郡部
総計	2.5	2.7	2.7	2.5	2.3	2.2
完了	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.0
不能	3.1	3.4	3.4	3.0	2.8	2.7
うち一時不在	4.5	4.5	5.1	4.3	4.0	4.4

4 まとめと考察

面接調査で、一票を完了するには、まず対象者本人に接触すること、そして次の段階として調査への協力の了承を得ることが必要である。今回は、第一段階である対象者本人に接触することに注目し、調査での訪問状況記録の検証を行った。

今回の調査では、訪問記録があった2,916件のうち7割の対象者に接触できていた。接触できなかった層は、不能の理由として「一時不在」が多かった男性

の20代、30代であり、高年齢層ほど接触状況は良かった。また、2回までの訪問で対象者全体の約半数に接触できており、調査員は効率よく訪問していたと評価できる。すべての訪問記録から算出した接触率より接触状況をみると、日曜日でどの時間帯もおおむね良好であり、対象者の在宅している割合が高かったと思われる。特に、男性の40代、50代、女性の20代は、日曜日に接触できている割合が他の曜日に比べ高かった。平日は土日より接触率が若干低いものの大きな差はなく、60代以上の年代については土日並みに高かった。調査員には、まず平日に調査地域に赴き、下見を兼ねて対象者宅をひとまわりするように指導している

が、1回目の訪問で対象者全体の3割近くと接触でき、60代以上ではその割合も高かったことから、調査開始が平日であることは、その後の土日に平日に会えない層に集中して訪問するためにも効率のよい日程といえるであろう。

また、接触できた対象者には、平均訪問回数2.2回で接触できていた一方、一時不在のため接触できなかった対象者の平均訪問回数は4.5回と、接触できた対象者の2倍以上の訪問を重ねていた。一時不在の対象者にはどの年代も平均4回以上訪問しており、調査員が根気よく訪問を重ねている様子が見えられた。

さらに、今回の分析の結果から、本人に接触できた場合、9割が調査を完了していたことが分かった。つまり、対象者本人に会えた場合の調査拒否は1割に満たず、不能理由の一つである拒否の半数は、対象者に会えないままの家族による拒否であった。特に40代～60代の男性対象者の家族による拒否が多かった。対象者本人による拒否が、これほど過少であったことは、本調査のテーマが身近な話題であったため、対象者本人と接触し調査の趣旨や内容を説明することができれば、協力の了承を得られたことが考えられる。また、対象者本人に会えれば、協力の了承を得られるだけの説明能力を調査員が有していたともいえよう。なお、本調査に限らず、対象者の家族からの拒否が少なくないことは、他調査でも同様の傾向がみられる(2003 田辺、2008 保田・宍戸・岩井)。

今後の調査員指導としては、平日と土日に分けた3回以上の訪問は継続し、平

日は、60代、70代の無職者や主婦など平日に在宅している割合の高い対象者を中心に、その他の年代や雇用者と思われる対象者は、土曜日、日曜日、特に日曜日に重点を置いて訪問するように指導をしていく必要がある。接触率の高かった午前中の早い時間帯や、夜の遅い時間帯の訪問についても検討すべき点であるが、19時以降の遅い時間の訪問は接触できても協力率が低いという傾向もみられ(保田 2009)、かえって拒否を増加させることにもなりかねないため注意が必要である。午前中の早い時間帯についても、同様の注意は必要であるが、土日の午前中であまり早過ぎない時間帯での訪問を増やすことは有効であると考えられる。

家族による調査拒否に対しては、調査員の粘り強い訪問と説明が必要となる。家族により調査拒否となると、その後訪問を打ち切っていることが多いことから、本人に直接会って調査について説明したいこと、本人の在宅時間に再度訪問したいことなどを伝え、本人に会う努力を続けるよう指導する他、事前依頼ハガキなどの調査書類を家族の目にも留まるように工夫するなど、調査ツールの改善についても検討すべき点である。また、家族から対象者本人は不在がちで会えないと聞いて、訪問を終了しているケースについても少なからずあるため、事例別に対象者の家族への対応トークスクリプトを用意し、調査員が粘り強く訪問できるように準備を整え、支援することが必要であろう。

今回の検証により、調査不能の理由のトップである「拒否」と「一時不在」について減少させる余地がまだあることが

わかった。対象者の性・年代を考慮した訪問は、一時不在の多い若年層の回収率を押し上げ、家族への丁寧な説明は中年層の拒否を減らすことにつながっていくことが期待できる。調査員の行動管理には限界があるが、調査中の訪問状況を記録させることにより、調査員の行動パターンのみならず対象者の在宅傾向を把握することも可能であり、訪問状況記録には回収率の改善につながるヒントが多く隠されているといえる。今後も、対象者の在宅時間の検証や拒否などの不能パターンを把握に努め、時代にあったより適切で細やかな調査員管理・指導を行うことによって、回収率のさらなる低下を阻み、ひいては向上につなげていくことができると思われる。

.....

〔注〕

- 1) 対象者が不在で会えないという不能の理由のうち、出張等で調査期間中在宅していないものを「長期不在」とし、それ以外の一時的な不在については「一時不在」として、区別している。
- 2) 「世論調査の現況」は、内閣府大臣官房政府広報室が、政府関係機関、大学、報道機関、一般企業・各種団体等に対し世論調査の実施状況について照会し、まとめたものである。
- 3) 訪問記録は5回以上訪問した場合は、最後の訪問を5回目の欄に記入しているため、実際の接触率は今回の結果より低いことが予想される。
- 4) 対象者本人に接触できたが、その場では協力依頼ができず再度訪問し、改めて協力依頼を行ったケースがあるため、接触できた人数(2,057)を上回る2,135となっている。

- 5) 対象者本人に接触ありの場合で、不能の理由が「一時不在」は、対象者に一度会えたものの、その場では協力依頼ができず、次の訪問を約束したが、最終的に会えなかったケースである。

〔参考文献〕

窪田知久，面接調査の現状と課題，2008，「行動計量学」

杉山明子，社会調査の基本，1984，朝倉書店

松田映二，郵送調査の効用と可能性－「不信の時代」を乗り越えるために，2008，JMRA 調査研究セミナー資料

海野道郎・篠木幹子・工藤匠，社会調査における実査体制と回収率，2009，「社会と調査」

田辺俊介，面接調査の欠票理由の検討－面接調査の回収率向上のための一提言，2003，「社会学論考」

保田時男，JGSSにおける調査員の訪問記録の分析，2009，日本版 General Social Surveys 研究論文集 [8]

保田時男・穴戸邦章・岩井紀子，大規模調査の回収率改善のための調査員の行動把握，2008，「理論と方法」